

【令和2年度使用教科用図書採択に係る 第3回選定委員会】

事務局 それでは、ただ今より令和2年度使用教科用図書採択のための第3回選定委員会を開催いたします。本日の選定委員会の司会・進行を務めさせていただきます。どうぞ、よろしくをお願いいたします。それでは、開催にあたりまして、選定委員会委員長よりご挨拶をお願いいたします。

委員長 【挨拶】

事務局 ありがとうございます。それでは、本日の資料及び委員会の流れについて説明させていただきます。配付物の確認をいたします。

- (1) 第3回選定委員会次第
- (2) 第4回選定委員会次第（案）
- (3) 令和2年度使用教科用図書の選定について（答申）（案）
- (4) 市民からの意見書まとめ

資料はそろっておりますでしょうか。

(3)は答申の際に提出する具申書（案）です。教科書発行者ごとに全者の良い点を中心に概要をまとめています。答申の際に選定委員会としての意見となるため、内容についても論議をお願いいたします。第2回及び本日の会のやりとりも踏まえ、加筆修正したものを第4回選定委員会でお示しします。(4)は市民からの意見書の概要です。6月28日現在のものです。協議の資料として取り扱っていただければと考えます。次に本日の流れについてですが、(3)選定具申（案）をもとに事務局より具申内容の説明を行いますので、質疑応答、具申内容の確認をしていただきます。その後、選定委員会としての発行者の順位付けをしていただけたらと思います。それでは、委員長よろしくをお願いいたします。

委員長 それでは、国語の方から説明をお願いいたします。

【国語】

事務局 それでは、国語の説明をさせていただきます。現代の課題を題材にしていること、主体的に学習をすすめられるような手立てを多くのこと、また、考えたことを「書く」ことを大切に扱っていることが、6年間の学びを通して、中学校の学習にもつながっていることを考え、調査が行われました。「東京書籍」につきましては、「目標・内容の取り扱い」について、バランスよく「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」について構成されています。現代の課題を十分に取り入れ、情報を相手にわかりやすく伝える記述、自分の考えを書くという教材を多く取り入れています。「学校図書」につきましては、巻末に資料を配置し、教科書を入り口として様々なジャンルの読みものに触れる機会を保障しています。

「教育出版」につきましては、カラーユニバーサルデザインを取り入れたつくりとなっています。また、各領域が偏りなく配置され、一つの単元で、複数の領域に学べるように扱われています。「光村図書出版」につきましては、「漢字教材・声に出して読もう・聞いて楽しもう。詩を楽しもう・季節のことば」などの小単元を位置づけ、メリハリのある構成となっています。「漢字の広場」「言葉の宝石」では、1年生の入門期において、

丁寧に語彙の習得、イメージができるように構成されています。以上でございます。

委員長 前回調査報告の中で、「東京書籍」は、タブレット端末やパソコンなど、情報機器を活用した活動ができる、「つかう・まとめる・活用」という形がどの單元にも入っていて、学習の流れがわかりやすい、ということがありましたが、特にこれからの学習で、情報機器を活用したという部分では、「東京書籍」のこれらの点は、非常に大事だと考えますが、いかがでしょうか。

副委員長 私は、「東京書籍」よりも、「光村図書出版」の方が、吹田の子供たちにとってよりよい教科書ではないかと思います。理由は、同じ学年で比較してみたところ、「東京書籍」は文字が小さく色味が薄く、「光村図書出版」のほうが、子供たちが手に取った時に、国語の本を開きたくなるような気がします。

委員長 確かに字は小さいですね。

D 委員 私も「東京書籍」か「光村図書出版」のどちらか、とっていて、一番大きな違いは、読み物が終わった後の、「学習をすすめよう」のようなページが、2者の違いが大きくできているかと思っています。「光村図書出版」は、見開きで、つかもう、まとめよう、のようになっています。「東京書籍」の方は、それが数ページにわたって続き、より丁寧に細かく、子供にとってはヒントがたくさん書かれています。「光村図書出版」は、書かれている分量は絞られているが、ある意味、クラスの実態や、教師が入りたい活動に対して融通が利きやすいと思います。たくさん書いている方が、子供にとっていいのか、ただ狭められてしまい、メリットであるのか、デメリットであるのか悩ましいですが、授業をする上で、こここのところは大事なことでと考えています。自分がもし担任であれば、「光村図書出版」ぐらいの幅にしておいてもらって、あとは、子供とのやりとりの中で、課題を見つけたり、それを解決するやりとりをしたりできれば、と考えます。ただ、経験の少ない先生にとっては、たくさん書いてある「東京書籍」もいいと思いますが、決まったことしかできないのでは、とも思います。

委員長 一長一短というところですね。

C 委員 新学習指導要領の中味で言うと、対話的な深い思考や、学び方がかなり問われていますが、自ら進んで学ぶという意味で、どの会社も学び方を充実させてきてはいるのですが、ひとつの学習の進め方のパターンとして、特に「東京書籍」は、つかむ、ふりかえるということを中心に、その学年で習うことを詳しく、先に出しておいて、話し合う場面が重要視されるようにされているので、学び方という意味では、「東京書籍」が一步ひいでているのかな、と考えます。

委員長 こここのところですね。まず見通しを持ってというところで。「東京書籍」がつかむ、まとめる、活用するというパターンです。「光村図書」の方は、ある部分もあるけれどもない部分もあります。

E 委員 構成的には、「光村図書出版」は、物語などの後に、学び方が書かれているのと、「東京書籍」の方は、物語などの前に、「こういうことをしようね、今まではどんなことを積

## 【令和2年度使用教科用図書採択に係る 第3回選定委員会】

み重ねてきたかな、最後にはふりかえる」ということで、学習の流れみたいなものが示されていると思います。

委員長 この2者について、秀でているところがあるということで、おしていくということによってよろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

委員長 それでは、「東京書籍」と「光村図書出版」をあげさせていただきます。

### 【書写】

事務局 書写について、今回の改訂では、伝統的な言語文化や、言葉の由来や変化、読書といった内容とともに、わが国の言語文化に関する事項として、整理されております。それを踏まえ、各者とも、内容の配列等、バランスのよい教科書となっております。「東京書籍」は、書写のカギという項目が全学年に位置付けられ、巻末にまとめられています。すべてのページに、どのカギを使うか、ということが、ページの端にのってあり、探せるようになっています。また、高学年については、七夕の短冊や、地元紹介のリーフレットや、豊臣秀吉の手紙といった、過去の文字に関する興味づけのものも多く載せられています。また、1・2年生低学年については、毛筆の見本を随所に提示しております。2年生、13ページ、今後の毛筆の学習と硬筆との結びつきを示しております。「学校図書」については、原寸大の手本が準備され、見やすいものとなっております。高学年で硬筆の練習欄が非常に多く設定されています。また、3年生の毛筆の導入の段階で、カタカナの「ビル」をとりあげています。カタカナをとりあげることで、学年が進むにつれて難しくなっていく漢字の字形を、生かすことがねらいであると考えております。また、硬筆の書き込み欄同様、ふりかえりも、めあてをいかして、自分の考えたことを書く単元も多く含まれております。「教育出版」は、全学年で、文字に興味を持たせるようなコラムが、豊富に掲載されております。生活の中で使われている文字に着目している内容が含まれている他、国語や他教科、学校生活に生かせるトピックも掲載されております。「光村図書出版」は、人権の取り扱いについて各学年によく配慮されており、5・6年において、東日本大震災時の壁新聞や、アイヌの文化、オバマ大統領の広島訪問、バリアフリーなど、新聞づくり等の紹介の中で、幅広い視点で配慮されていることがわかります。1・2年生のはじめの段階では、「しよしゃたいそう」という姿勢保持も含めたものをとりいれており、必要な筋肉を鍛えて、いい姿勢を保持させる工夫をしております。また、3年生以上では、毛筆学習の際に、手で空書きをしてから実践する流れを設定しております。体感させることで技能につながるという流れが、明確となっております。二次元コードが単元ごとに掲載されています。また3年生では、たしかめようシールも添付され、児童の自己評価や、評価の際の活用にかさねられます。「日本文教出版」は、授業の流れとして、1・2年生では、この教科書の使い方、3～6年生では、書写学習の進め方というものを巻頭に掲載しており、学びの手順や方法を、子供自身が学べるように工夫されております。また、水書用紙、朱液を活用した見本を載せるなど、視覚的な穂先の動きの工夫も意識できるようになっています。

委員長 「学校図書」はシールがついていて、ポイントがわかりやすいと思いました。「光村図書出版」は、二次元コードで筆使いが見られ、子供たちの視覚的な指導をできるという

## 【令和2年度使用教科用図書採択に係る 第3回選定委員会】

のは、大きいと思います。また、6年生で東日本大震災の壁新聞、アイヌの文化を紹介する新聞等、人権に配慮されている印象があります。教科横断的に指導でき、見開きになっているので、新聞の指導もしやすいと思います。

D 委員 字を書くことについていうと、やはり1・2年生から丁寧に、鉛筆の持ち方、姿勢などから指導すると思うので、そういった視点で見比べてみました。1年生のスタートカリキュラムでいうと、「光村図書出版」はあまりごちゃごちゃしていないところから始まっていたり、「しゅしゃたいそう」であったり、座り方を示し、あまり情報量が多すぎず負担が少ない状態でスタートしているところがいいと思います。2年生で、原稿用紙の指導が出てくるのは、「光村図書出版」「日本文教出版」の2者だけで、このことを早いうちに身に付け、いろいろな学習指導に生かしていけたら、ということで、この2者、また、1年生のことについても含めると「光村図書出版」がいいかなと思います。

委員 長 「東京書籍」は水書用紙がついていて、「日本文教出版」にもついていますね。

事務局 1・2年生についているのが、「東京書籍」と「日本文教出版」で、1年生のみについているのが、「教育出版」と「光村図書出版」です。「学校図書」は紹介のみになっています。

委員 長 「光村図書出版」の1年生は、水筆の使い方も載っていて、水書用紙の使い方についても書かれていますね。今、話にあがってきたのが3者ですが、これらに絞ってよろしいですか。「東京書籍」「光村図書出版」「日本文教出版」の3者をおしていきます。

全委員 異議なし。

## 【社会】

事務局 「東京書籍」につきましては、全学年に学習の進め方があり、「つかむ、調べる、まとめる、生かす」という学習過程が、全学年を通じて、統一されています。単元の「つかむ」の段階では、単元の学習課題とともに、調べることも明示してあり、児童が見通しをもって、調べ学習をすすめられるような工夫があります。「まとめる」ではまとめ方が記されており、児童がまとめ方を習得する参考になると思われます。また、社会への関わり方を、選択・判断する力を養うために、「生かす」のコーナーが設置されています。提案文を書いたり、自分にできることを考えたり、意見をまとめたりするなど、様々な学習活動が、全学年で用意されております。キャラクターの発言は、「つかむ」の学習で量が多く、社会的なものの見方や考え方に結びつけるような発言が多くされています。

「教育出版」につきましては、各単元で、「つかむ、調べる、まとめる、つなげる」の流れで設定されています。字のフォントが特徴的で、ユニバーサルデザインフォントが使われています。写真やイラスト、グラフ資料が豊富で、通し番号がついており、キャラクターの吹き出しと資料の番号が合うようになっていて、どの発言がどの資料をもとにされているのかわかりやすくなっています。

「日本文教出版」では、各単元で「疑問を見つける、調べる、話し合う、まとめる、伝える」の5つの段階で学習がすすめられています。単元の最終には見方・考え方のコーナーがあり、学習してきたことをいかして、さらに次の課題について考える視点が明記されています。また、「私たちの学びをいかそう」のコーナーで、児童が興味・関心を持ちそ

## 【令和2年度使用教科用図書採択に係る 第3回選定委員会】

うな話題の詳しい説明資料を、自主的・発展的な内容として取り上げ、自分たちの身近なところに生かす視点が書かれています。

委員長 「東京書籍」だけが、5・6年生が上下巻にわかれているんですね。合本はかなりボリュームがありますね。

副委員長 逆に、1冊にまとまっている方が、授業を進めていく中で、歴史・政治・国際等の内容について、線引きが難しい面もあるのでは。「歴史をふりかえってみようか」と言った時に、「教科書持ってきていないから」ということにはならないのかなと思います。「教育出版」は1冊にまとまっていて、写真や図が多く、興味を引く教科書になっていると思います。

C 委員 ランドセルにいれる量から考えると、6年生はかなりの量を持ってくるということと、社会科学習の今日の内容が一体何に位置づいているのか、教師にもわかりづらいところはあるのですが、「東京書籍」は、毎回、今は「調べる」、今は「まとめる」といったことが明示されている。「つかむ、調べる、まとめる」というのはどの教科書にもあるが、しっかりと教科書に明示されているのは、「東京書籍」で毎時間の進め方が非常にわかりやすいと思います。

委員長 「つかむ、調べる、まとめる」の次が、3者で個性がでています。「東京書籍」が「生かす」、「教育出版」は次の学習に「つなげる」、「日本文教出版」は「伝える」、発信をする、ということになっています。「東京書籍」の「生かす」を見ると、学んだことを自分なりに、生活にどう結びつけていくのか、自分でできることを考える、様々な意見をまとめたりするなど、非常に幅広く書かれていることと、自分でできることに落としこんでいくというのは、非常にいいことではないかなと思います。地震についても取り上げていて、大阪北部地震のこともあり、身近なことなので、「東京書籍」がいいかな、と思います。

F 委員 「東京書籍」だけ、ドラえもんがついている。ぱっと見た時に、「調べる」などポイントが書いてある。知っているキャラクターに目がいくこともあります。

委員長 ご意見いろいろ出てきたのですが、「東京書籍」と「教育出版」の2者に絞ってよろしいでしょうか。

全員 異議なし。

## 【地図】

事務局 「東京書籍」については、日本全体図、地域地図、世界全体図、地域地図・地球儀のページなど、社会科学習で使用する基本的な地図が掲載されており、P20～22にある折り込みの日本全図により、全体を見開きで見渡せるようになっています。全体を通して写真資料が多く、また地図ページには、子供の吹き出しで、調べ学習のヒント等があり、児童の興味関心を引き出すよう工夫されています。75ページの資料ページには、日本の歴史地図とともに、世界史の地図が示されており、日本の歴史とともに、世界の歴史を調べることができるよう配慮されています。「帝国書院」について、内容などについては、社

## 【令和2年度使用教科用図書採択に係る 第3回選定委員会】

会科学習で使用される基本的な地図が掲載されており、3～6年の社会科学習で活用できる、様々な資料が掲載されていますが、帝国書院では特に、P47～48に京阪神地域の拡大地図を見開きで取り上げています。P19～28には、「広く見渡す地図」のページがあり、各都道府県の名所や名産などが示された大まかな地図があり、どちらも地図に慣れていない3年生や、支援の必要な児童にとっても情報がとらえやすく、また、児童が興味関心を持つことができるよう構成されています。9～14ページの「地図のやくそく」のページでは、地図に関する知識技能の基本的な内容である「方位」「地図記号」「縮尺」などについて大きく取り上げており、「トライ！」で学んだことを確認しながら学習することができるよう配慮されています。さらに、学びを深めるための様々な課題を示した「地図マスター」の欄が、全体を通して設けられており、具体的に地図帳を使用して、調べることができるよう工夫されています。どちらの出版者にも、色覚特性への配慮として、色だけの区別ではなく、形でも区別できるように配慮されておりますが、「帝国書院」では、地図の色分けに加えて模様をいれ、区別できるようになっています。

D 委員 はじめて地図帳を見る、3年生をイメージした時に、地図帳とは、というイントロダクションの意味で、「帝国書院」がわかりやすいと思っています。方角や地図記号が、前半に特集であるのが、子供が地図帳を使いこなす力をつけていくのに、とても役に立つと思います。京阪神の拡大地図もあるというのは、4年生になって大阪府のことを学ぶ上でも使えると思います。

委員 長 「東京書籍」には「東京」や「京都」の地図はあるのですが、大阪の子供たちにとっての、京阪神の地図はないんです。

E 委員 「帝国書院」は、使い方の点で非常に丁寧であるし、「地図マスター」で、地図に興味を持って見るということについても工夫されていて、学習の時間以外にも、眺めても楽しいものになっていていいと思います。

委員 長 それでは、意見が固まってきたと思うので、地図はこのあたりで終わりたいと思います。

## 【算数】

事務局 「東京書籍」は、1年生の年度当初の教科書がA4サイズで別冊になっており、書き込みがしやすく、消しやすい素材を使用しており、ノートに慣れていない、この時期に使いやすいものとなっています。また数学的な見方・考え方を意識づけるために、該当する文言の箇所にマークがついており、児童にとってわかりやすく、見やすいものとなっています。3年生では、「小数→分数→重さ」の順に配列されているので、重さの表現のなかに、小数が使えるという良さがあります。

「大日本図書」は、割合の単元では、従来、野球の打率を扱うことが多かったのですが、野球ではなく、ソフトボールの打率を扱い、女性アスリートを登場させるつくりとなっています。また、合科学習を視野に入れ、「リンク家庭科」などの他教科のリンクマークをつけることで、教科横断的な観点から、他教科との関連を示す工夫があります。「学校図書」は、2年生から教科書の冒頭で、3つの学びの力、思考力・判断力・表現力について、児童にわかるような形で説明がされています。単元の始まりや課題を解決するページ、課題を解決した後、と、それぞれで対話的な学びがイメージしやすいつくりになっています。「中学校へのかけはし」という別冊があり、6年間で獲得してきた、見方・考え方をふり

かえるとともに、中学校での内容の一部に触れることができるようになっていきます。

「教育出版」は、単元のはじめに、見開き2ページを使って、対話が広がるように作られており、導入での興味づけにじっくり時間をかける方針が貫かれています。数学的な考えを引き出すヒントとなる言葉を、吹き出しを使って、児童の言葉で提示しています。「啓林館」は、色覚特性への配慮から、色だけで区別するのではなく、赤色の帽子であれば、絵のそばに赤、と文字情報も添えられています。5年生の面積の単元では、三角形の求積をしてから、平行四辺形の求積をする配列になっており、どのような多角形でも、三角形を基準に考えればよいことが大切にされており、他者とは違う配列になっています。

「日本文教出版」では、単元の終わりに「わかっているかな」「まちがいやすい問題」「たしかめポイント」の3つがあり、知識・技能の定着を図る仕組みとなっています。「算数マイトライ」では、3段階の難易度にわかれた補充問題があり、習熟度に応じて取り組みやすくなっています。

- 委員長 前回委員会の際、プログラミング学習を、QRコードを使って用意されています、「東京書籍」「啓林館」「学校書籍」と聞いているのですが、この3者は、プログラミングについても丁寧に行っていると聞いていたので、この3つはのせていった方がいいかと思うのですが。
- D 委員 1年生のAサイズの別冊がついている「東京書籍」ですが、ブロックの取り扱い自体初めてだったりすると、大きな紙面で実際絵の上に置きながら数を数えたり、書き込んで○をしたり、というのがいいと思います。また、6年以外は分冊になっており、分け方も、2つめの単元の並べ方ぐらいまで分冊になっていたりしてわかりやすくなっています。それぞれの時間のまとめについて、どの教科書にもありますが、まとめがわかりやすく示されていると思います。
- C 委員 並び方について記述しているところが、それぞれ異なっているのですが「学校図書」は3つの学び方ということで、それぞれ学年の教科書に、それぞれ同じような形で上巻に示されており、6年生までを見通して、思考し、判断する力、表す力を子供につけるように考えられている点で、「学校図書」は少し秀でていているかと思います。また、考え方モンスターということで、キャラクターを使って記述されていることもわかりやすいと思います。
- C 委員 「学校図書」が他に比べて、横幅が広く、広げた時にとまり、勉強がやさしいかなと思いました。
- 委員長 本当ですね。これって、子供にとって、ストレスがないですね。
- G 委員 だから、この大きさなんですね。
- 委員長 「東京書籍」と「学校図書」の2者をあげていくことでよろしいですか。
- 全委員 異議なし。

【理科】

事務局 「東京書籍」は1者だけ、大きな版になっています。「レベルアップ理科の力」といった、理科の見方・考え方に着目する、あるいは、問題解決について、学年に応じた思考の育て方について、重点になるところを特徴的に示しています。巻末にたくさんの資料を設けており、「理科の調べ方を身につけよう」という特設コーナーがあります。

「大日本図書」の特徴的なところは、資料が豊富である、また様々なマークで、他教科、他学年との関連を示し、たくさんの資料をたくさんのマークを使って示しているところです。発達段階に応じて、理科の問題解決の思考の手順を、学年ごとに示しています。注意マーク等で、注意を引く方法もとられております。

「学校図書」は、巻頭の「～年生で学ぶこと」「科学のめを育てよう」により、その学年で学ぶべき視点を、初めに強調して示しています。どの学年で何を学ぶのかが、わかりやすくなっています。特に、思考の際に、図を使って考えることを促す指示等がいくつか見られ、言葉だけではなく、図を用いて、というところが意識できるようになっております。

「教育出版」は巻頭の、「使い方、調べ方、考えの伝えあい方、国語科で学んだ力を使って理科の力ものばそう、学習の進め方、ノートの取り方」について、丁寧な説明がされています。また、問題解決をする手順が、7つのステップで示されており、見直しをもってできるようになった点や、子供の吹き出しで、理科の見方や考え方について、ヒントを促すようになっているところが特徴です。資料も広く取り上げられ、他教科とのつながりや、中学校に向けてのつながりも掲載されているところが特徴です。裏表紙に「安全の手引き」を掲載し、使いやすい場所に注意点等が載せられています。

「啓林館」は、目次から、学習の思考の手順、「見つける、調べる、ふりかえる」という問題解決の手順を示した後に、各単元のはじめにめあてを提示し、何を学習するのかはじめに確認するようになっています。「理科の広場」が随所にあり、家庭科や発展・中学校といった形で、関連がわかりやすく示されているのも特徴です。プログラミング教育について、シートやシールのツールを活用して思考する工夫もあります。

D 委員 課題、実験、考察、という学習の流れをイメージした時に、予想を立てて、結果を踏まえ、結論づけるのが大切だと思いますが、各者、計画を立てて、予想を立ててというのはでていますが、取扱いとして、「東京書籍」「教育出版」「学校図書」は、問題、実験、結論というのが大きく出ており、小さく、予想しようという風になっています。「啓林館」は、予想も含めて、比重のかけ方が同じで、予想を立てて仮説のもと実験するという考え方がわかりやすく、大切なことが伝わると思います。

委員長 「啓林館」のプログラミング学習が、パソコンがなくてもできると聞いたけれども、それなら、コンピューター室が使えなくても学べますね。このシールとシートを使って、アナログで学べる考え方がいいと思います。実際の使い方も書かれていて使いやすいと思います。

副委員長 写真に注目すると、「学校図書」と「教育出版」は、理科的な興味関心を引くものになっています。「東京書籍」「啓林館」はちょっと人物の写真がクローズアップされている気がします。

C 委員 「教育出版」は、みつけよう、問題、予想しよう、計画しようの一貫して流れを示し、



キャラクターもよく知られたアトムで、学習にいきなうという意味では有効だと思います。

委員長 「啓林館」「教育出版」と「学校図書」の3者でいかがですか。

全委員 異議なし。

### 【生活】

事務局 「東京書籍」は、観察カードを初めて描くことになるアサガオの観察カードの例示において、書き方のポイント等が大きく詳しく描かれております。また、他の単元でも、ワークシートの例がページ右下に提示され、児童が参考にしやすいよう工夫されています。安全で適切な活動や観察ができるように、見開き右上に「やくそく」の欄が設けられている。スタートカリキュラムでは、幼児期をふり返りながら、学校生活への興味・関心が高められるようになっていきます。上下巻ともに、おもちゃ図鑑が取り扱われ、おもちゃをつくったことがない子にも、これを活用して、活動しやすいものとなっています。上巻末に「ポケットずかん」、下巻巻末に「べんりてちょう」があり、学習の質を高め、必要な習慣や技能を話し合うための資料が充実しています。「社会に開かれた教育」を目指しており、保護者向けに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が発揮される場面などの解説文が掲載されています。

「大日本図書」は、家族に関する単元において、多様な家族の写真を使い、男女の役割分担に偏りが無いよう配慮されています。巻末の「がくしゅうどうぐばこ」では、障がい者理解につながる写真もあり、世界の言語や文化ということで、多様性理解に配慮されています。春の町探検の前に「学校までの道カード」を書かせ、それを張り合わせることで、校区地図へと発展させ、社会科につなげるしかけがあります。校区地図の作り方も下巻末の「がくしゅうどうぐばこ」に掲載されています。理科とのつながりとしては、おもちゃ作りでゴム・空気・音を利用するものを中心に、その工夫による動きや音の変化を感じ取らせるものとなっています。

「学校図書」の2年生の自分の成長を振り返る単元「わたし探検」では、「自分で振り返る」「友達に聞く」「大人に聞く」の段階を踏むことで、自分のとらえ方を広げていけるように配慮されています。各単元、導入はドキドキ、活動いきいき、思考・表現ふむふむ、ふりかえりニコニコ、という4段階構成で学習過程が明確にされています。社会科とのつながりとしては、町探検で、大型の校区地図を活用して探検をし、消防の仕事や農家の仕事も取り扱っています。理科とのつながりとしては、おもちゃ作りを動くおもちゃに限定して、どのように工夫すれば、動力の大きさが変化するか考えさせる工夫があります。

「教育出版」はスタートカリキュラムのところで、絵本を使い、子供たちが幼児期の活動を思い出しながら、小学校生活を送ることができるようになっていきます。「生きものをさがそう」のところで、生き物の育て方を、飼い方も含めて、詳しくのせていることで、いろいろな経験が乏しい子供たちも、虫が飼いやすいようになっていきます。「まんぞくはしご」により、はしごにのぼっているキャラクターと、自分の思いが上か下かを比べることにより、自己評価ができるようになっていきます。

「光村図書出版」は家族に関する単元で、上巻「みんなのにこにこ大作戦」や下巻「広がれわたし」において、家族構成の違いに影響されることなく学習が進められるように配慮されています。色覚特性のある児童も含め、文字や絵が判別しやすいように配色に留意されています。思いや見通しを持つホップ、活動し考えるステップ、ふりかえるジャンプという、3段階の学習過程となっています。季節の変化も上巻に4ページ分の見開きで、

季節の変化を、大きな写真でわかりやすく示しています。

「啓林館」は、季節の単元において、季節の様子やその季節の特色を生かした遊びを考える設定になっており、遊びも、比べたり試してみたりすることによって、工夫できるよう配慮されています。「まとめよう・つたえよう」では、写真やイラストを使って、まとめたことを伝えあう手だてが紹介されています。スタートブックでは、幼児期の写真、遊びの写真をたくさん掲載し、幼児期と小学校のつながりを、感じられるようになっています。QRコンテンツが掲載されていて、学習内容と対応する教育情報を、端末で閲覧できるようになっています。巻末の「がくしゅうずかん」にも、道具の使い方などがわかりやすく提示され、生活経験の乏しい子にも親しみやすい工夫がなされています。単元導入わくわく、主な活動いきいき、表現活動ぐんぐん、という3段階構成となっており、これらのプロセスを通して単元が終わることが、明確にされています。わくわくの扉と題し、子どもたちの経験や体験を大切に、日常生活から生活科がはじまるように工夫し、「～したい」という願いを高める「わくわくボックス」が設定されており、効果的に進められる工夫がされています。

「日本文教出版」は 学校・地域での生活の様子を示すイラストや写真において、多様性に配慮された場面を載せており、その違いに気付くことで互いの理解へと結びつくよう配慮されています。町の中における点字や標識、手話なども巻末にまとめられており、地域の障がいをもつ方との関わりについても考えられるように配慮されています。社会科とのつながりとしては、地域のセンターや児童館、デイサービスセンターなど、公共施設を取り上げ、地域のつながりを意識させている。理科とのつながりでは、「あそびめいじんになろう」の単元で、工夫している活動が、詳しく展開されており、試行錯誤を繰り返しながら活動を展開し、科学的思考が高められるように工夫されています。

委員長 「啓林館」のわくわくボックスは、見開きで、いろいろな単元にあり、興味をひくという点では、おもしろい仕組みがあると思います。2年生の野菜を育てる単元で、こんな野菜もあるよ、という仕掛けがたくさんあるのと、幼児期の写真もたくさん使われていて、下の学年でやったこと、上の学年につなげること、がわかりやすく書いてあると思います。「東京書籍」のポケットずかん、こういうのがあれば持って行って観察しやすいと思います。

D 委員 「啓林館」「東京書籍」のそれぞれにいいところがあると思います。「啓林館」の「なつとなかよし」「あきとなかよし」は、まとめてではなく、ちゃんと、その季節にあうところに配置されていて、子供たちの活動を促すようになっています。1年生のアサガオなどの種を育てるところで、種と花を見比べられるようになっています。「東京書籍」では、同じ箇所が、前のページが短く切れていて、ページをめくるごとに、成長が見られ、この部分はすごくいいと思います。「日本文教出版」には、山折りにしなさいと書かれています。

副委員長 理科を意識するのであれば、虫、野菜などの写真がきちんと出ていることが大切だと考えた時に、「啓林館」「東京書籍」の2者が、きれいにでて、秀でていると思います。

委員長 それでは、「啓林館」と「東京書籍」の2者であげさせていただいてよろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

【音楽】

事務局 「教育出版」は、各ページに、題材と題材ごとの学習の見通しが示され、「学習のめあて」が大きくページの上部に記されており、わかりやすく、既習事項のページや関連の資料等のリンク先をカエルのマークで示し、振り返りや関連学習ができるようになっていきます。巻末に『「音楽のもと」まとめ』のページがあり、その学年で学習した内容がわかりやすくまとめられています。記入できるワークシートが3年生からあり、書いた後に「この曲のおもしろいところなどを友だちにつたえよう。」など、話し合いの視点が示されています。「教育芸術社」は題材の目標が目次と共に、題材のトップページの左側に大きく示されていることや、各教材の学習目標も、それぞれのページの上に大きく示してあり、児童が見通しを持って、学習に取り組めるようになっていきます。また、何を学ぶのかを児童にもわかりやすいように、イラストを効果的に使っています。全学年の巻末に「振り返りのページ」や資料があり、その学年での学習内容が整理されていることにより、基礎基本を適宜振り返り、学習できるようになっています。キャラクターの吹き出しで学習のヒントを示したり、工夫するポイントや意見交換をする観点を示したワークシートが示されています。音楽づくりの題材が多く設定されており、音楽づくりを通して対話的な学びが深まるように配慮されています。児童がお互いに認め合いながら学習できるよう、人権を尊重する観点からも適切に選曲が行われています。

D 委員 巻末のふりかえりのページが、両者とも設定されているということで、3年生を見比べてみました。はじめてリコーダーがでてくる学年ということで、大きなポイントになるかなととらえています。「教育出版」は、「音楽のもと」まとめというのを、イラストを使ってなじみやすい表現がされていますが、「教育芸術社」は、音楽的なものを使って表現されています。旋律やリズムの用語がでてきているのであれば、3年生のこの段階から、きちんと音楽記号を使って学んでいくのがいいのではないかと思ったので、その点で、「教育芸術社」はわかりやすいかな、と。あわせて、巻末にリコーダー運指表があり、ならんで示されていて、巻末の使いやすさの点でも、教育芸術社がいいのではないかと思います。

委員長 圧倒的に、「教育芸術社」の方が載っている曲数が多い気がします。6年生を見てもかなり多いのと、合奏を見たのですが、吹田市はリコーダーが中心になっているのですが、「教育芸術社」はリコーダーがメロディーの楽譜が多いと思います。「教育出版」は、即興でいれてみようというところもあり、そういうことも大事ではありますが、ちょっと小学生には難しいかなと思います。和音の旋律づくりとか、小学生で身に付けておいてほしいことを大切にしているのは、「教育芸術社」かなと思います。楽器のことも詳しくて、扱いについても、音色の違いなど、基礎的なことについて、丁寧に説明されていると思います。

C 委員 「教育出版」は、「君が代」の記載が巻末から少し手前で統一されていますが、「教育芸術社」は、一番後ろに、すべての学年で書かれているので、マナーの記述があつたりするので、より、詳しく子供たちに話ができると思います。

E 委員 「教育出版」は、学習をすすめるポイントが書かれているが、やや見にくいところがありますが、「教育芸術社」は、見やすさもあるし、それによって学んだり、しっかり考えたりすることができる工夫がされていると思います。

委員長 では、音楽は、「教育芸術社」をおしてということでもいいですか。

全委員 異議なし。

### 【図画工作】

事務局 「開隆堂出版」は一つの教材に対して、多様な表現方法が大きな写真とともに掲載されており、非常に写真は見やすくなっています。また、語句、作品例、挿絵、等には、人権尊重の観点から、適切に取り上げられております。視覚に多様性のある子供たちにも、対応しています。鑑賞の題材では、各教科書4ページ扱いになっており、「みんなのギャラリー」では、日本各地の伝統と文化に触れ、その良さを味わうことができるようになっていきます。1・2年生の題材ですが、線描きやスタンプ遊びなど、幼児期の学びから繋がるものを取り上げています。また、5・6年生下では、中学校への橋渡しを意識した事例「中学校生活に向けて」のコーナーが設けられており、水墨画など中学校の学習、また国語等との関連も取り上げています。目次では、1年間の学習の見通しが、わかりやすく写真とともに掲載されております。また、QRコードを読み取ると、用具の使い方や作り方などの動画や作品例を見ることができるよう工夫されています。題材ごとに材料や表現方法が紹介され、児童の発達段階に応じて、発展的な表現活動を促す内容になっています。

「日本文教出版」は、表現方法や造形活動の展開に幅を持たせることができるよう配慮されています。作品の写真に吹き出し等をつけて、子供たちが気付いたこと、次の発展につながるような言葉が掲載されております。用具の正しい使い方安全面の配慮事項について、「!きをつけよう」のマークで注意喚起されており、巻末のページには、用具の使い方も改めて掲示されております。鑑賞の題材では、4ページ扱いの内容になっているものも多く、子どもたちが造形的な面白さを感じ取り、情景写真等が掲載されております。また、「教科書美術館」では、子供たちが考え方を深められるように、身の回りのものから美術作品まで幅広く掲載されています。活動と[共通事項]を結び付けられるように、キャラクターが設定されています。キャラクターが児童のつけた形や色などについて認めたり、気づきを促す行為を提案したりする言葉を投げかけたりすることで、形や色などについて、気づいたことが知識として定着するよう配慮されております。1・2年生上で幼児期の活動を振り返るページを2ページ設けられており、5・6年生下では、中学生について考えるページが設けられており、中学校の美術や技術・家庭との関連に配慮したページも設けられています。巻頭で、身の回りの物や美術作品を紹介し、能動的な鑑賞活動や言語活動ができるよう工夫されています。指導書のデジタルコンテンツで、技法動画を見ることができ、付属の大判のポスターもついています。アートカード、素材カード、言葉カードを利用して多様な鑑賞活動ができるよう工夫されています。

D 委員 どちらもたくさんの作品が紹介されていますが、「日本文教出版」には、取り組んでいる子供の気持ちであったり、目のつけどころなどが吹き出しで示されていたり、キャラクターがアドバイスをくれたり、子供たち自身がこのページを見てイメージをふくらませていく、わかりやすい紙面になっていると思います。絵と立体と工作の数のバランスもとれていると思います。

C 委員 作品ものっているのですが、「開隆堂」は、作品で遊んでいたりする場面が多いですが、「日本文教出版」は作っている活動の写真が多いので、そちらの方がいいのではないかと

思います。

副委員長 載っている写真が、「日本文教出版」の方が、よりダイナミックな感じでとびこんできて、これを描きたくなるという意欲につながるのではないかと思います。

E 委員 巻末のことについて、特に1年生は、「日本文教出版」には、カッターの使い方であったり、木工やすりの使い方等、道具の使い方がより丁寧に、いろいろなパターンで、説明されているところが印象に残りました。

委員長 あかりを使った作品づくりについて、「開隆堂」は、光だけを意識した作品作りとなっていますが、「日本文教出版」は紙工作に光を入れたらどうなるかな、というようになっており、より自分たちが作ったものをどう見せていくかというところに光を利用しようという提案があり、より高学年らしい作品ということでよりいいのではないかと思います。

委員長 それでは、「日本文教出版」をおしてということでもよろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

#### 【家庭】

事務局 「家庭」について報告いたします。2者ともに学習指導要領に準拠した目標及び内容構成となっており、児童の主體的・対話的で深い学びにつながる活動を取り入れ、実践的・体験的に楽しく学びながら、自身の家庭生活をより良いものに改善しようとする意識醸成を図るものとなっております。

「東京書籍」につきましては、座学になりがちなところにも実践的・体験的な活動を促すような設定が具体的に示され、児童の思考力・判断力・表現力を育むよう配慮されており、さらに、生活の基盤となる家族や家庭生活との結びつきや、学習した知識・技能を生活の中で生かす視点、家族の一員として果たす役割を示唆する内容となっております。また、包丁や裁ちばさみなどの使い方など、実物大の写真と解説で示され、教科書に直接手を置いて指導できることから、児童に分かりやすいものとなっております。A4判で作成されていることで、紙面が大きく、全体的に写真や図が見やすいこと、縫い方の細かいところまで提示しているなど、学習内容がわかりやすくなっております。

「開隆堂」につきましては、基礎的・基本的な知識や技能に関する内容を厳選し的確に記載され、簡単なものから難しいものへと確実に習得できるような工夫がされております。実習手順などは、写真や図の配列が、児童の視線の流れを考慮し、見開きページを使い、一面で見ることができるようになっております。文章量が少なく、1つひとつの手順がコンパクトに要点を絞って示されております。また、「開隆堂」は多くのページにQRコードが示され、学習状況に応じて「児童が家庭で学ぶ」「授業ですぐに映像が見られる」「視覚的な効果がある」「意欲関心が高まる」など、効果的に活用ができるようになっております。

委員長 ご家庭では、学校の家庭科で習ったことなどをしていらっしゃいますか。

G 委員 活かしているとは思うんですけども。

C 委員 「東京書籍」の方が、誌面が大きいということで、写真や資料の扱いにしても情報量と

して、より大きく書かれ、家庭科ではそれが大事なことだと思います。

委員長 「東京書籍」が、5年生で「夏の暮らし」と「冬の暮らし」が同じ学年で指導できるとあったのですが、「開隆堂」は、「冬」が5年、「夏」が6年で、対比するというのが、同じ学年であったほうがいいのではないかと思います。5年生の終わりにふりかえりがあるところも、わかりやすくいいと思います。両者とも見開きのところに全体を俯瞰する図があるのですが、「東京書籍」の方は山が2つになっており、どのように学んでいくのかわかりやすいと思います。

副委員長 「東京書籍」は、版が大きい分、余白が多くなっています。「開隆堂」の方が視覚に訴える部分が大きく、より見たくなるものになっていると思います。

E 委員 誌面構成を見ると、「東京書籍」は、ステップ1、2、3というように、円でどの段階にあるのかわかり、調べよう、話し合おう、深めようということで、何をすることがわかりやすく書かれていると思います。「開隆堂」は、最初に学習のまとめとありますが、「東京書籍」の方が、ページを追うごとに出てきているのでわかりやすいと思います。

D 委員 「東京書籍」は、ステップ1、2、3の学習の段階が視覚的にしめされ、それぞれのめあても書かれていて、それぞれのページに、ステップ1をふりかえろう、2をふりかえろうと、めあてと対応して設定されており、「～に気づきましたか」「～ができましたか」、とめあてにあわせた発問が示されており、気づきを促すことが書かれています。「開隆堂」は「できたかな」という表記が多くなっています。子どもたちにとって、めあてとふりかえりのリンクの点では「東京書籍」かなと思います。ただ、「開隆堂」は一口メモで、豆知識を示しているところもあります。

H 委員 「東京書籍」は大きく、とても見やすく、左利きのこともわかりやすく、注意事項も別に書かれていたので、わかりやすいと思います。

委員長 では、「東京書籍」をあげてということですが、ただ一長一短はあります、ということとしたいと思います。

全委員 異議なし。

#### 【保健】

事務局 「東京書籍」についてです。ステップ1 2 3 4と細かく学習の進め方を明示して、学習の見通しがつきやすい構成となっています。書き込みをする上で書きやすい紙質です。「つなげよう」のコーナーでは高学年4 8ページのように他教科との関連が見られます。字数が精査されて、情報が入ってきやすい構成となっています。吹き出しの言葉が簡潔で、わかりやすくなっています。デジタル教材がついていて、資料を活用することが可能となっています。

「大日本図書」です。他社と異なりひとまわり小さいサイズになっています。情報量を最小限に抑え、見やすく、情報が入ってきやすい誌面構成となっています。デジタル教材を活用して学習できるようになっており、3年生と4年生の学習では、シールを活用しての学習が可能になっています。写真やグラフが掲載されていて、それぞれの学習に応じた

## 【令和2年度使用教科用図書採択に係る 第3回選定委員会】

ものとなっています。

「文教社」です。3・4年では、性教育について、詳しく乗っています。4ページの扱いとなっており、女子のことだけでなく、男子のことも掲載されています。5・6年生では、安全についても詳しくのっています。22ページには、人災、犯罪が起こりそうな場所について、28ページでは津波、災害について、細かく書いてあります。また、27ページには、熱中症についてわかりやすくフローチャートで説明されています。

「光文書院」です。3・4年生の第二次性徴のところで、性的マイノリティーについて表記があり、スマホの利用についても掲載されていたり、最先端の題材が扱われています。学習の見通しを立てやすくさせるために、6コマ、4コマ漫画で解説し、興味・関心を高める工夫もされています。知っておくためのなる豆知識のコーナーを設けて、情報としても、見やすいものになっています。

「学研教育みらい」です。書き込み欄を小さくすることで、情報量を増やしています。説明のバランスがよく、情報が入ってきやすい構成となっています。ふり返る、深める、つなげるのまとめのコーナーでは、学習してわかったことや大切だと思ったことがまとめられるような構成になっています。カラーユニバーサルデザインに配慮して製作されて、科学的な内容が「かがくの目」として写真や図解で提示されています。

委員長 「東京書籍」はステップ1、2、3、4とあり、学習が進めやすいと思います。また、ステップ2の中にも、2-1、2-2と細かく分かれていますので、教える側も、教えられる側もわかりやすいと思います。「光文書院」で性的マイノリティーが扱われているということで、それは大事なことだと思いますし、単元の最初で4コマ漫画があり、「こんなことを学ぶよう」ということがすぐわかりやすく出ているので、意欲づけにもなり、楽しく学習できると思います。

E 委員 「東京書籍」は、すっきりしていて見やすく、学習の流れも見やすく、書き込みもできるようになっていてわかりやすいと思います。

D 委員 「東京書籍」は、書き込むところもほぼすべてのページにあって、学習の中で資料をみて教えられるだけではなく、自分でふりかえったり、意見を交流したり、対話的な学びをする中で、役に立つ作りだと思います。「光文書院」は、資料として相談先が書いてあったり、早寝・早起・動きと並ぶものとして、あるいはそれより大きくスマホ・タブレットの使い方について書かれており、今の子供たちの課題にあっていていいと思います。

委員長 では、「東京書籍」「光文書院」をあげていくことでいいですか。

全委員 異議なし。

## 【特別の教科 道徳】

事務局 「東京書籍」は、読み物教材とは異なった形式の「活用型教材」が収録されており、様々な活動の中で、アクティブに議論することを促し、子供たちの多面的・多角的な考えを引き出す工夫がされています。また、「いじめをしない、許さない心を育てる教材」として、「とびらのページ」「直接的教材」「間接的教材」がユニットとして用意され、複数時間にわたり、いじめのことを深く、じっくり考えることができるよう工夫されています。

「学校図書」は、児童が主体的に気づき、学びを深める「きづき」「まなび」の2冊で、

一つの教科書となっています。読み物教材の「きづき」で、道徳的価値や課題と出会い、そこでの気づきをもとに、「まなび」で、よりよいあり方を考え、議論し、深めあう活動ができるよう工夫されています。また、いじめ問題については、一度きりで終わらない学びとなるように、いじめに関連する教材は、年間を通して、計画的に配列されています。

「教育出版」は、動物を登場人物とした物語教材が多い低学年、児童の生活場面を題材にして、考えや行動について考えさせる中学年、人物の生き方から、自己の生き方について考えを深めさせる高学年と、発達段階に合わせて、各学年で取り上げる教材が工夫し、配置されています。また、体験を通して、人としての行動について考え深められるよう「モラルスキルトレーニング」が全学年にわたっては配置され、多様なスキルの育成が実現できるよう、工夫されています。

「光村図書出版」は、全教材において、対話を通して、深い学びにつなげられるよう、「話し合いの土台作りとなる同党的な問い」「道徳的な価値について、理解や自覚を深める問い」「自分にひきつけ、自分自身に返す、掘り下げの問い」と道徳の時間に考えることを3つの切り口から提示しています。いじめ問題については「呼びかけ」「教材」「コラム」を組み合わせたユニットが設定されており、「いじめ」をしない、させない、見過ごさない力が系統的に育成されるよう工夫されています。またこのユニットは、いずれも学年の前半に配当され、学級づくり、友達との関係づくりに生かせる配置になっています。

「日本文教出版」は、別冊で道徳ノートが用意されており、自身の考えを書く自由記述欄が設けられています。また、友達の意見も記入することができ、これらを通して、自身を振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう配慮されています。教材の冒頭には主題が示され、一回一回の授業でねらいが達成されるよう配慮されているとともに、コラム「心のベンチ」では、教材に関連する素材が提供され、多面的・多角的な思考を促す工夫がされています。

「光文書院」は、児童に寄り添うキャラクターを設定し、共感や気づき、考えるためのポイントや考えを広げるための見方など、様々な問いが提示されています。また、物語教材では、最初に登場人物を紹介し、子供の読みを理解する手助けがされています。巻末には、授業の記録を書いてまとめられるよう、「学びの足あと」として折り込みのページが設けられ、自らを振り返って成長を実感したり、道徳的諸価値理解を深めたり、整理したりできるよう工夫されています。

「学研教育みらい」は、教材の主題を本文と出会う前に記載しないことで、「特定の価値観を押し付けない」、児童の課題意識を大切にしたりつくりとなっています。「いのちの教育」を最重要テーマとして、全学年でいのちに関わる教材ユニットで、3点用意され、それに加えて、内容項目の異なる複数教材も配列されています。「いじめ問題」についても、いじめ防止につながる教材を、様々な内容項目で取り上げ、自他の生命を尊重し、他者とよりよく生きることについて、多面的・多角的に考えられるよう配置されています。また、教科書のサイズをA4版にすることで、挿絵や資料を大きく豊富に載せる工夫がされ、児童の興味関心をひくものとなっています。

「廣済堂あかつき」は、別冊「道徳ノート」を活用して、児童が自分自身の学習を振り返って成長を実感したり、課題や目標を見つけたりすることができるように工夫されています。「考えよう 話し合おう」においては、学習の道筋を示し、体験的な学習の視点を踏まえた問いを示すなどして、主題やねらいに応じて、児童がさらに学習を広げることができるよう、「知っておこう」「本のしょうかい」「活動しよう」など、さまざまな切り口から学習できるよう工夫されています。



【令和2年度使用教科用図書採択に係る 第3回選定委員会】

はなりますが、ワークシートを使って、みんなが同じような授業をすることが望ましいのか、様々な価値観に従って子供たちを導く授業を展開する方がいいのか、現行の教科書は、先入観なしに、気付きを出発点にして、道徳の授業をする方がいいのか、というところですが、研究授業等を見る中で、冒頭に主題のあるなしは、実際、それほど問題ではないのかなと思います。読んでいく中で、子供たちの中から主題が出てくる醍醐味があるのは「学研教育みらい」だと思います。

D 委員 「学研教育みらい」を使って積み上げてきたものを活かして道徳の授業ができればいいと思います。実際に使用してみて、子供たちの実態にあっていないという声は聞かないし、ワークシートがなくても工夫をしているところなので、その流れは大事にしていきたいし、最初に主題を出さずにいくのもいいのではないかと思います。ワークシートに書かれている発問だけしか使えないのはちょっと、と思います。たまに使って、たまに使わないのも、よくないのでは、ということで別冊のついているものは避けた方がよいのではと思います。

G 委員 子供を学校に行かせる親として、「算数」とかは答えがあるが、「道徳」はどれが答えというのがないものなので、「この子はこう思ったんですか」「正解です」ということではなく、そこを育ててほしいと思っています。あまり、答えを書き込みすぎるのではなく、これが答えだと思わないような授業ができるようなものがあるのかなと思います。

E 委員 経験の少ない先生にとっては、何を問うたらいいのか示された方がいいのかもしれないですが、何をねらいとしなければいけないのか、ということが抜けて流すだけの授業になりかねないので、週1回の授業は、しっかり読み物資料を読み、何を子供たちに深く考えさせるのかをもって臨む授業にするために「学研教育みらい」がいいのか、と思います。

C 委員 家庭や地域で使うことを想定し、持ち帰ることを考えると、「光村図書出版」が、扱いやすさでは秀でていていると思います。学習の流れも、理解や自覚を深める、テーマを考えると、わかりやすく示されていると思います。

委員長 「光村図書」と「学研教育みらい」があがっていますが、ワークシートのあるものということとなると、「日本文教出版」は、いろいろ聞かないで、ひとつだけなんです。別冊になっているのですが、教科書を置いておき、別冊だけを持ち帰ることも可能だと思います。

D 委員 「光村図書出版」と「学研教育みらい」の2者について、資料に対応する内容項目の数をみると、5年生では、「学研」はAは9、Bは9、Cは9、Dは8とバランスよく配置されています。「光村図書出版」は、Aは9、Bは9、Cは11、Dは少なく、6ということで、他学年を見ても、大体バランスよく取り扱っているのが、「学研教育みらい」だと思います。

委員長 「学研教育みらい」と「光村図書出版」があがると思いますが、あとワークシートのあるところでいうとどうですか。

C 委員 「日本文教出版」と「廣済堂あかつき」は書き込むワークシートですが、「学校図書」は、「まなび」と「きづき」でわかれており、「まなび」はワークシートではないんですよね。そういう意味では、この2冊セットになっているのは意味があるのかなと思います。

【令和2年度使用教科用図書採択に係る 第3回選定委員会】

D 委員 「学校図書」の分け方は内容項目別なんですよね。教材の順番ではなく、内容項目ごとにまとめられていて、それが特徴かと思います。「日本文教出版」と「廣済堂あかつきは」教材順なんです。自分の考えと友達のことをメモする程度の小さい欄があって、これを使ってどのように授業をするのかなあとは思いますが。

E 委員 「学校図書」は、書くスペースが少なすぎるかなあと思います。授業をする側としては。

委員長 「学研教育みらい」「光村図書出版」、ワークシートのあるものとして、「学校教育図書」「日本文教出版」でしょうか。

副委員長 この2年間使ってきたの答えが必要かと思います。よくなかった、といった意見もないし、別冊のついていないもので考えてもいいのではないですか。

委員長 それでは、「学研教育みらい」「光村図書出版」の2者であげていく、でよろしいですか。

全委員 異議なし。

【外国語（英語）】

事務局 「東京書籍」は、各単元は音声から文字への流れを重視し、「聞く→話す（やり取り・発表）→読む・書く」の流れで構成されています。各単元には、単元の内容に関連した異文化理解のためのページが用意されています。別冊の Picture Dictionary には、中学校の学習を見据えた語彙が記載されています。

「開隆堂」はチャンツなどの言語活動を通して基礎的な知識を、やりとりを通してコミュニケーション活動で活用できる技能を、身につけられるよう配慮されています。各単元で、単語の習得から表現の習得へと、易から難への配列がなされています。各単元にペア、グループワークが設定されています。

「学校図書」は、各レッスンで4技能5領域を用いたアクティビティが扱われています。各レッスンが「聞く→繰り返し言う→話す→読む・書く」の流れになっており、言語習得理論に沿った構成となっています。自分のことについて話すというスタンスを取っており、活動の目的がはっきりとしているため、単なる繰り返し練習にならず、意欲を引き出す活動が多くなっています。各レッスンの中で、日本のことや外国のことについて知るコーナーがあり、児童が視野を広げる工夫がされています。

「三省堂」は、段階的にターゲット表現の習熟を図るよう工夫されています。2学年で6つの言語活動の目標を設定し、それに向けて学びを深めるために、6つの大単元を配置しています。言語活動は、基礎的・基本的な知識や技能を習得することを重視したものと、思考力・判断力・表現力の育成を重視したものが、バランスよく配分されています。

「教育出版」は、教科書の構成が見やすく、導入では、児童が興味・関心を引く動画を用いてのリスニングがあり、ゲームの方法などもわかりやすく示され、どの先生でも、担任一人でも行えるようになっています。まとめでは、ペアやグループの活動が設けられており、自分が伝えたい内容を伝えられるようになっています。ワークシートの見本などが、2種類以上あり、児童の実態にあったものを伝えられるようになっています。児童がよく知っている日本語の本や、他教科との連携があり、シールを使ってのワークシートの作成など、児童が英語に親しめる工夫がされています。

「光村図書出版」は、各ユニットの言語活動は、10～15分の短時間学習で使えるよ

【令和2年度使用教科用図書採択に係る 第3回選定委員会】

うになっています。ホップ・ステップ・ジャンプという段階を踏んだ学習で、基礎的な知識・技能が着実に習得できるようになっています。4技能5領域がバランスよく配置されています。コミュニケーションでは、相手意識を持つことの大切さを示し、話す活動で「あいづち」などレスポンスが大切であることを示唆しています。世界12か国の子供たちの生活の様子などをとりあげ、他国への関心を高めています。

「啓林館」はレビューでは、既習の表現を、場面や状況を変えて使用できるかを問い、思考力・判断力を養っています。短く簡単な表現を聞くことから入り、ゆるやかに話す活動に移行するよう工夫されています。Unitごとにゴールが明確に示され、ふりかえりもあり、「自分ができるようになったこと」を確認することができる。

委員長 「教育出版」が、今使っているものとよく似ていて、教員も児童も違和感なく使いやすいと思います。「書く」活動について、何度もアルファベットが出てきて、大文字に習熟したあとに小文字がでてくる構成になっており、丁寧な印象を持ちました。

D 委員 「教育出版」が、今までになじんだ流れでわかりやすい、ということと、1単元の流れがはっきりしていて、パターンの繰り返しで、最初様子をみて、歌ったり聞いたりして、友達と伝えあいをして、最後に書くところがあり、単元の合間にも書くところがあり、子供たちにとってハードルの高い「書く」ことに対する負担があまりないようになっていると思います。また巻末に、マイワードバンクがあり、並び方がごちゃごちゃしておらず、英語が読めなくてもはっきりわかるぐらいのイラストが描かれていて、見やすい配置になっていると思います。「光村図書出版」は、ホワイトボードがついており、何度も書いたりできる、練習できる工夫も大変おもしろいと思います。授業の全体の流し方で言うと、「教育出版」かなと思います。

C 委員 英語学習が苦手な児童もいる中、誌面が楽しく、入りやすいものが多いと思います。「教育出版」は楽しいし、巻末にシールもついています。「光村図書」もシールがついており、子供を引き付けることもできると思います。

委員長 「教育出版」はインプットが多いと聞き、語彙も多く、770語ということではいろいろな職業も載っていると思います。「光村図書出版」は、ゲームを通して習熟させるということによって、絵も字もわかりやすく、ゲームの内容や方法についても書かれているので、わかりやすいと思います。ゲームの内容も、今使用しているものと似ている印象があります。

G 委員 「学校図書」は、英会話教材とよく似ている印象があります。きれいな並びでわかりやすくかかれていると思います。「教育出版」は少し、バラバラとかいてある気がしたので、「学校図書」がわかりやすいと思います。

H 委員 小学校5・6年で習うことで、中学校の内容も変わってくるのでしょうか。中学校1年生で習うような内容かと思うのですが。

委員長 おそらく変わります。

事務局 前倒しではないですが、これまでなかった「読む、書く」ことが入ってきました。ただ、小学校でするから中1ではないということではなく、重なる部分があるので、小学校で学

【令和2年度使用教科用図書採択に係る 第3回選定委員会】

んだことを、さらに中学校で深めていくということになります。テストをして、覚えてるかな、ということではなく、認識をするということになります。

H 委員 チャンツというのはなんですか。

委員長 英語独特の音声になれるために、リズムをつけて、口ならしをするものです。

D 委員 6年生の2学期のレッスンで、夏休みの思い出、My Summer Vacation なのですが、「東京書籍」は、Summer Vacation in the World となっています。「学校図書」が、I went to my grandparent's house.というタイトルになっており  
行っていない子供もいるのかな、と思います。

委員長 では、「教育出版」「光村図書」「学校図書」の3者をあげていくということによろしいですか。

全委員 異議なし。

事務局 ありがとうございます。それでは答申案の2点目、4点目について、ご説明いたします。本日の答申案の1枚目、鑑をご覧ください。今、答申案の1番、令和2年度使用教科用図書小学校用種目についてと、3番の令和2年度使用教科用図書中学校用（「特別の教科 道徳」を除く）についてご協議いただきました。2番と4番についてですが、こちらも合わせて答申するというので、その案を別表3に掲載しております。学校教育法附則第9条に規定される教科用図書の採択について、以下別表3のとおり採択することが望ましいと考えます。別表3なのですが、諮問の時にもご説明いたしましたが、附則第9条に規定される教科書というのは、小・中学校で言えば、いわゆる支援学級で特別の教育課程を実施しているという場合で、所定の学年の検定教科書を使用することが適切でない場合、この附則第9条に基づいて採択することができる教科用図書のことで、その採択について以下のことを答申します、ということで、吹田市におきましては、従来より、障がいのある児童生徒の社会参画や自立を実現させる観点に立ち、可能な限り全ての児童生徒が、共に学び、共に育つよう配慮しており、支援学級に在籍する児童生徒と通常学級に在籍する児童生徒との様々な交流を大切にしてきました。従いまして、支援学級に在籍する児童生徒につきましても、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第3条の対象として、通常学級の児童生徒と同じ「検定教科書」を採択し、附則第9条に規定される教科用図書については、採択しないことが望ましいと考えます。しかしながら、これまで、弱視児童生徒のために、検定教科書の文字や図形を拡大等して複製し、一般図書として発行する場合、弱視の児童生徒に無償給付する措置がとられてきました。従いまして、対象の児童生徒の教育条件の改善に資するため、「拡大教科書」を附則第9条に基づき採択することが望ましいと考えます。なお、各種目の「拡大教科書」につきましても、令和2年度使用教科用図書として採択された発行者の教科用図書を拡大したものとします。というような文言を入れた形

【令和2年度使用教科用図書採択に係る 第3回選定委員会】

で答申案を立てたのですが、いかがでしょうか。参考までに、ここに述べている法律については、こういう形で表記されているということも載せさせていただきますいております。

確認

事務局      ありがとうございます。長時間ありがとうございました。それでは、次回の委員会についての説明を申し上げます。次回7月9日(火)15:00～第4回選定委員会をさんくす三番館4F教育委員室にて行います。本日の協議内容をもとに、加筆修正された答申書(案)を確認いただき、その後、教育委員会に答申する運びになります。委員長より事務局に手交していただきます。第4回選定委員会にて皆様の選定委員としての役割は終了でございます。この後は、選定委員会からの答申を受けて教育委員会にて各種目1者を採択いたします。前回お渡ししました「調査報告書」並びに本日の資料として配付いたしました「具申書(案)」の取扱いにつきましては、どちらも7月9日の第4回の選定委員会で返却いただきますが、それまでの間、教科書内容の研究・検討にご活用いただくとともに厳重に保管いただきますようお願いいたします。当然のことながら、今回の教科書採択終了まで選定委員会の内部資料でございます。外部の方への提供は厳禁ですので、よろしく願いいたします。